

栗子隧道西口ヨリ豊受姫尊神社ヲ望ム図（高橋由一画・山形大学附属博物館蔵）

萬世の大路

第5号

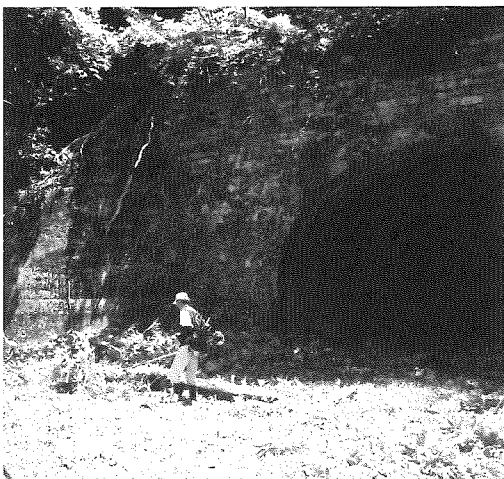
平成20年8月20日発行

発行者

歴史の道万世大路・万歳の松保存会
会長 田畑 實

事務局

万世コミュニティーセンター
☎0238-28-5381



昭和のトンネル西口前広場の草刈り



明治の隧道西口付近の草刈り

栗子隧道

西口の景観

栗子隧道は明治九年から五年もの歳月をかけて同十三年に開通しました。その後一年余りをかけて道路整備を行っております。

図は、当時の隧道西口（米沢口）の全景です。入口右手には神社（豊受姫尊神社）が描かれており、三島通庸の恩人である大久保利通内務卿と上杉鷹山公が祀ってありました。また、入口手前には、ガス灯が描かれており、明治十四年十一月二十日付けの山形新聞記事には『栗子トンネルには昼夜とも通行人の便利の為、東西入口に点灯なすゆえ、点灯費として通行人一人につき一銭五厘づつ取り立て、警備のため入口に巡査二名を各々数時間交代で立番させることとなった。』と記されております。

今はうっそうと生い茂る木立の中にトンネル口だけが残るのみですが、図は往時を偲ばせる風景であります。